第４回福岡県地球温暖化対策実行計画専門委員会 議事要旨

１　開催日時等

（１）日時：令和８年１０月２１日（水）１４時３０分～１７時００分
（２）場所：福岡県庁　特１会議室

２　議事

（１）第３回専門委員会における委員質問等に対する補足説明
　　～将来の電源構成・再生可能エネルギー導入目標の考え方～
（２）次期「福岡県地球温暖化対策実行計画」【素案】について
　ア 温室効果ガス排出量の将来推計結果（対策ケース）について
　イ 「福岡県地球温暖化対策実行計画（第３次）」【素案】の概要について
（３）次回委員会の開催について

３　主な意見等

○議事１

【本田委員】

・資料1 P7 の余剰電力の貯蔵・活用について、なぜ「余剰」を入れるのか。昼間に発電した電力を貯蔵することは「余剰」ではない。あえて「余剰」という言葉を入れなくてもいいのではないか。

【事務局】

・九州エリアでは太陽光発電や風力発電が進んでおり、電気が余って出力制御が行われていることを念頭に置いていたため、「余剰」という言葉を入れていた。それ以外の電力も貯蔵できるため、「余剰」という言葉は省く。

○議事２

【林委員】

・資料 2-1 P8 に鉄道分野について、西鉄電車の取組が記載されているが、JR 九州の取組はあるか。

【事務局】

・資料に反映できていないが、九州新幹線の電力を一部再エネ化すると発表している。

【浅野委員長】

・福岡市営地下鉄の再エネ化について、福岡市は計画に盛り込んでいる。県の計画では国の推計に含まれているのか。

【事務局】

・福岡市営地下鉄の取組は国等の対策を反映した推計①に含まれており、西鉄の取組は県内の取組等を追加反映した推計②に含めている。

【本田委員】

・推計①が国の対策、推計②が国の対策に県の対策を加えたもの。そのことがわかるように記載してはどうか。
・資料 2-1 P11 の農林水産業の取組について、施設園芸は温度、湿度、CO_2が重要。CO_2を減らすと、生産効率が低下するのではないか。

【事務局】
・全国的な取組として、施設園芸の省エネ化は重要である。本県でも暖房に関する取組を進めているため、県の追加対策として記載している。
・国や JA では、セメント工場の排ガスから分離・回収したCO_2を施設園芸に利用する取組が行われつつある。CO_2が必要になれば、今後、CCUS で分離したCO_2の活用が進むのではないかと考えている。
・記載の仕方を検討したい。

【渡辺委員】
・資料 2-2 P30 の重点項目の水環境・水資源に「渇水」とあるが、福岡県では冬季渇水などは地球温暖化とは別に起こりやすい。単に「渇水」と記載すると冬季渇水と混同される可能性があるため、「異常渇水」と記載してもらいたい。また、最重点項目の自然災害・沿岸域に「短時間強雨」と記載があるが、「短時間集中降雨」と記載するのが良い。
・資料 2-2 P35 の水環境・水資源に「雨水・再生水利用」「雨水利用」と記載があるが、「雨水・再生水活用」「雨水活用」と記載するのが良い。
・資料 2-2 P18 の公共施設における取組の「防災機能強化」について、避難所に指定されているところについては、雨水貯留と併せて、生活用水を確保するような取組があると良い。
・福岡大学では、短時間集中降雨対策としてグラウンドに雨水を貯留し、浸水被害を軽減する取組を行っている。費用は国が 1/3、県が 1/3、福岡市が 1/6、福岡大学が 1/6 負担している。県の取組ということでトピックスに記載していただきたい。
・もう一つトピックスの候補として、大川でセンダンの木で家具の制作を始めた方がいる。センダンの木はスギやヒノキと比べてCO_2を多く吸収し、非常に早く成長する。このセンダンの木を使うことでCO_2の固定化につながる。

【浅野委員長】
・窒素循環の観点からも広葉樹との混交林にすることで目覚ましい効果があり、センダンも効いてくるかもしれない。

【本田委員】
・全体的な表記の仕方だが、資料 1 のように重要な点や注目すべき点は赤字で強調するとわかりやすい。資料 2-3 計画本体でも太字や赤字を使うと良いと考える。
・資料 2-3 P106～の資料編の用語解説だが、抜けている用語がある。アルファベット表記はできるだけ用語解説に記載してほしい。「カーボンニュートラル」と「ネット・ゼロ」の説明が微妙に違う。この表記だと「カーボンニュートラル」と「ネット・ゼロ」は違うものだと理解してしまう。

・資料 2-2 P40 のトピックスについて、企業の取組が多い。7,11,17,20 といった自治体の取組を掲載するのが良いと考える。

【林委員】
・資料 2-2 P37 の県民の取組について、脱炭素型ライフスタイルへの転換にまとめられるところはあるが、デマンドレスポンスへの協力を付け加えていただきたい。
・資料 2-2 P3 などのプラスチックの資源循環は、大変重要な取組みで今後大いに期待するところではあるが、やり方によっては必ずしも＝CO_2削減というわけではない。それをどう踏まえて計画実行していくか。
・資料 2-2 P41 のトピックスについて、家庭やコミュニティの雨庭の事例や賃貸住宅の ZEH 事例をレジリエンス向上策として入れてはいかがか
。

【酒井委員】
・資料 2-2 P21 の環境教育の推進について、学校でどのような教育がされているのか、そのことをどのように公表・公開しているのか。
・公共施設の ZEB 化も重要だが、公共施設以外の ZEB 化の取組があれば、トピックスの候補になると考える。

【事務局】
・県では環境教育副読本を制作しているが、先日開催された会議の中で、今後は緩和策だけではなく、適応策も盛り込んでいく必要があるということを伝えている。また、地球温暖化防止活動推進センターの講師派遣の中で、教員に対して適応策についても学んでいただく場を提供できないか、協議を行っているところである。
・県工業技術センターが大川でセンダンの木を使って企業と研究をしている。

【松本委員】※事前に意見聴取
・高温多湿耐性米の開発が急がれると考えている。現在も開発中と聞いているが、大体何年後完成予定なのか。他県ではすでに開発販売されていると思う。

【事務局】
・農林水産部に確認したところ、「令和７年度から令和９年度の事業において、品種開発を進めているところ」と回答を得ている。

【浅野委員長】
・KPI の使い方が誤っているため、削除するように。

４　その他

・次回委員会は１１月２７日の開催を予定。